

令和6年3月29日
北海道開発局
小樽開発建設部

尻別川水系河川整備計画を変更しました

～近年の洪水や気候変動の影響、流域治水の観点を踏まえた治水対策を推進～

北海道開発局では、「尻別川水系河川整備計画」の変更に向けて、河川法第16条の2の規定に基づき手続きを進めておりました。

今般、尻別川流域委員会、関係住民及び北海道知事等のご意見を踏まえ、令和6年3月28日付けで「尻別川水系河川整備計画」を変更しましたので、お知らせします。

整備計画変更のポイントは、以下のとおり。

- ① 近年の大規模洪水の発生、気候変動の影響に対応した河川整備
- ② 流域治水への転換を踏まえた治水対策（流域治水の取組推進）

詳細については、以下の小樽開発建設部のホームページにて公開しております。

<https://www.hkd.mlit.go.jp/ot/koumu/vu2tjq0000000xmd.html>

【問合せ先】

国土交通省 北海道開発局 電話（代表）011-709-2311

河川計画課 河川調整推進官 田代 隆志（内線 5361）

河川計画課 開発専門官 佐々木博文（内線 5297）

北海道開発局ホームページ <https://www.hkd.mlit.go.jp/>



国土交通省 北海道開発局 小樽開発建設部

工務課 課長 多田 和広（電話 0134-33-0525）

工務課 課長補佐 西塚 岳浩（電話 0134-23-5195）

小樽開発建設部ホームページ <https://www.hkd.mlit.go.jp/ot/>



尻別川水系河川整備計画〔変更〕【大臣管理区間】概要（変更の背景）

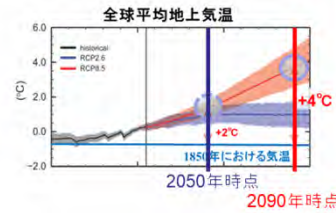
・平成22年4月に策定した尻別川水系河川整備計画について、以下の点から見直しを行い、令和6年3月に変更しました。

① 近年の大規模洪水の発生、気候変動の影響に対応した河川整備

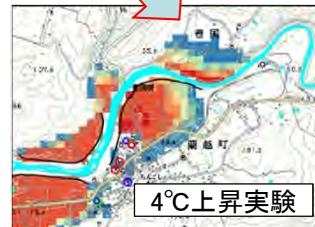
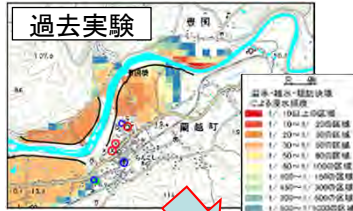
～将来の気候変動に伴う降雨量増大を考慮した河川整備計画の見直し～

<地域区分毎の降雨量変化倍率>

地域区分	2℃上昇		4℃上昇
			短時間
北海道北部、北海道南部	1.15	1.4	1.5
九州北西部	1.1	1.4	1.5
その他(沖縄含む)地域	1.1	1.2	1.3



- ・気候変動の影響により、2050年頃には各シナリオとも気温が2℃程度上昇することが予測されています。
- ・また、今世紀末には最も高い温室効果ガス濃度のシナリオ(RCP8.5)で4℃上昇が予測されています。
- ・北海道では2℃上昇時に降雨量が1.15倍になることが試算されています。



H30. 7浸水状況

R4. 8浸水状況

4℃上昇実験

② 流域治水への転換を踏まえた治水対策(流域治水の取組推進)

～ハード対策のみならず、ソフト対策や流域対策など、あらゆる関係者により流域全体で行う治水「流域治水」へ転換～

気候変動の影響や社会状況の変化などを踏まえ、あらゆる関係者が協働して流域全体で行う、「流域治水」への転換を推進し、洪水等による災害被害の軽減を図ります。

流域治水の3つの柱

- 被害をできるだけ防ぐ・減らすための対策
- 被害対象を減少させるための対策
- 被害の軽減・早期復旧・復興のための対策



流域治水 イメージ

③ 第9期北海道総合開発計画の目標、後志地域の将来像の視点

～第9期北海道総合開発計画の目標～



- 目標1 「我が国の豊かな暮らしを支える北海道
～食料安全保障、観光立国、ゼロカーボン北海道」
- 目標2 「北海道の価値を生み出す北海道型地域構造
～生産空間の維持・発展と強靱な国土づくり」

～後志地域の将来像の実現「地域づくりビジョン」を踏まえた視点～

食

農林水産業の持続的発展・ブランド化推進

- ・「らんこし米」等ブランド強化に必要な、「清流日本」尻別川の良い水資源の保全



下流域に広がる稲作地帯

米+グランプリ inらんこし

観光

国際的観光リゾートエリアとしての持続可能な観光地づくり

- ・観光資源を利用した広域的なツーリズム
- ・国際観光リゾートエリアの将来像を踏まえた河川防災情報の発信
- ・外国人に対する河川利用への配慮



国際自転車レース

カヌー利用

- 地域の将来像の基盤となる、気候変動を踏まえた流域の安全度確保
- 流域特性を生かした流域治水の推進
- 地域を支える豊かで良質な水資源の保全と河川空間の創出・利用

環境・景観

流域全体の相互協力による環境・景観の保全・創出

- ・尻別川統一条例との連携
- ・北海道景観計画との適合
- ・景観を生かした地域づくりとの連携



カワヤツメの産卵床

川の自然観察会

脱炭素

ゼロカーボン北海道の実現

- ・森林整備や農地の発展的保全等、グリーンインフラを生かした流域治水の推進



樹木伐開工事

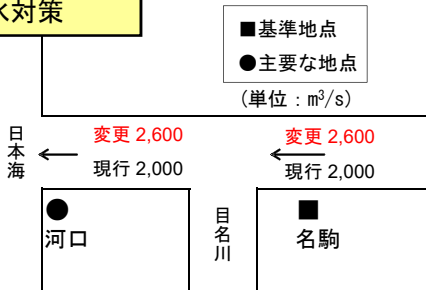
伐開した樹木のチップ化

尻別川水系河川整備計画〔変更〕【大臣管理区間】概要（主な変更点）

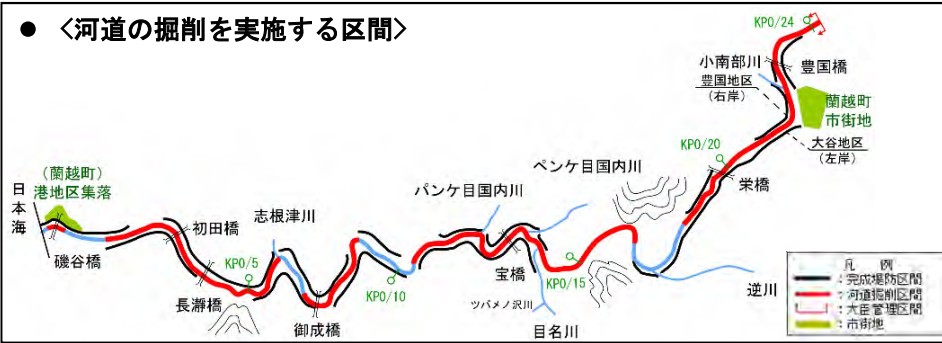
・平成22年4月に策定した尻別川水系河川整備計画について、以下の点から見直しを行い、令和6年3月に変更しました。

■気候変動に対する安全度を確保する治水対策

● 気候変動後（2℃上昇時）の状況においても平成22年（2010年）4月に策定した前河川整備計画での目標（戦後最大である昭和50年（1975年）8月下旬洪水規模）と同程度の治水安全度を確保できる流量を安全に流下させることを目標とし、名駒基準地点における目標流量を2,000m³/s→2,600m³/sに変更しました。



●〈河道の掘削を実施する区間〉



■関係者と連携した地域の特性を活かした流域治水対策の推進

〈田んぼダムの普及促進〉

有数の稲作地帯であることから、流出抑制に資する「田んぼダム」の普及・啓発を進める



〈掘削土の有効活用〉

計画規模を上回る洪水や整備途上段階での施設能力を上回る洪水対策として、内水被害軽減や掘削土を活用した一時的な避難場所（レジリエンススペース）等、関係機関と連携して整備



〈タイムラインを活用した避難体制の強化〉

タイムラインを活用した関係機関との連携による訓練の実施



〈利水ダムの事前放流〉

尻別川水系治水協定に基づき、効果的な事前放流の実施や必要に応じて施設改良等による洪水調節機能の検討・強化を推進

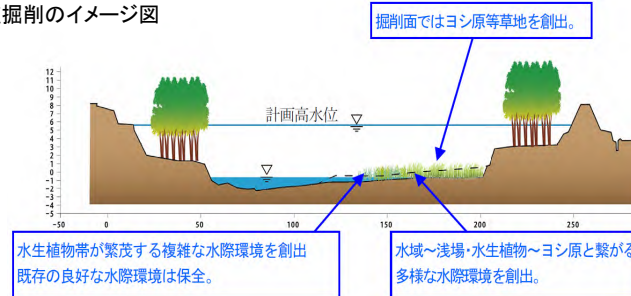


■河川環境の整備と保全・創出

〈河川環境の整備と保全・創出〉

➢ 河道の掘削に当たっては、魚類の産卵環境や水際植生の保全・創出を図り、水系として魚がすみやすい川づくりに努める。

河道掘削のイメージ図



➢ 流域の生産活動に極めて重要な「清流日本一」と称される尻別川の水資源の継続的な保全に努める

➢ 流域の自然環境の保全や創出を図るほか、川の中を主とした「多自然川づくり」から流域の「河川を基軸とした生態系ネットワークの形成」へと視点を拡大し、地域経済の活性化やにぎわいの創出を図る。



〈河川景観の保全・創出〉

尻別川流域のシンボルである羊蹄山を背景とした優れた水辺景観を有していることから、水面からなど様々な視点からの景観を考慮し、農地・市街地・山地等と一体となった景観の保全・創出を図る。

